

財賀寺所蔵『大般若経』の調査記録（補遺）

鶴田 知大

豊橋市美術博物館では、愛知県立大学中世史研究会・愛知大学地域史研究会が実施した石巻神社所蔵『大般若経』に関する研究成果を報告書として刊行するとともに、平成二七年三月一日から二七日にかけて「大般若経展」を開催した。この展覧会では、石巻神社所蔵『大般若経』を中心に、この地域に伝えられてきた大般若経および大般若経会に関する資料を紹介した。前号では、展覧会準備で調査した財賀寺所蔵『大般若経』の調査記録を紹介した。今回は追加調査の記録を紹介するものである。

豊川市の財賀寺は、古い由緒をもつ高野山真言宗の寺院である。寛政二年（一七九〇）に記された「三河國陀羅尼山略縁起」によれば、聖武天皇の勅願によって行基が開創したとされる。同縁起には山号を「陀羅尼山」、院号を「蘇悉地院」、坊号を「観音坊」、寺号を「財賀寺」と称することにについても書かれている。さて、同寺の大般若経は応永年間に成立し、経巻が傷むたびに補写や修復が重ねられてきた。前回報告と重複するが、その経緯は卷二二九の卷末識語として、同寺の昶誉により宝暦六年（一七五六）にまとめられている。

大般若波羅蜜多経卷第二百二十九

宝暦六丙子歳冬十二月廿一日書写畢

沙門昶誉

願以此功德 普及於一切

我等与衆生 皆共成仏道

当経全部六百之内

一百廿五卷

是応永年中当国下条郷竹内／右衛門太夫所奉納也宝暦六丙／子歳昶如昶誉処士正慮等／修治破裂補文字

磨滅畢

三百九十七卷

元文五庚申年至延享二乙丑／年当国宮崎住真木孫左衛門／治喜自制昏而書使也書写所／奉納也勸進僧昶

觀阿闍梨耶／赫号資料金一両 同所梅村氏／悪右衛門投之

七十八卷

宝暦五年至六年丙子治喜二／男舍由欲満亡父發願料

金若／干附之勸進僧昶誉自制紙／而与衆共書写之也

当経守護十六善神一幅

治喜嫡子長太夫勝乘／後改／信勲／書／以奉納之法

印昶觀奉開供養／畢

伏願護持施主并書写之輩結縁之人子／孫繁茂息災延寿共攬大智恵光

同満波／羅密多 重乞一天昇平四海静謐 金輪聖皇玉体安全 春

宮親王寿域万 歳 政夷大將軍貴体堅固公侯伯子男／武運長久

幕下諸士善願円満当嶺安穩／密教紹隆伽藍安全院内繁榮貴賤靈等／

皆成仏道乃至沙果平等拔濟于時宝暦／六丙子歳冬十二月廿一日金剛

沙門昶誉／謹識

（／は改行）

これによれば、宝暦六年当時の大般若経六〇〇巻は三種類に分ける事ができる。第一の一二五巻は、応永年中（一三九四～一四二八）に下条郷（現豊橋市下条地区）の竹内右衛門太夫が奉納したもので、宝暦六年に同寺の昶如や昶誉、（平井）正慮により修補された経巻。第二の三九七巻は、元文元年（一七三六）より延享三年（一七五〇）の期間に、当国宮崎（現岡崎市宮崎地区）の真木孫左衛門（治喜）が施主となり紙などを用意し、同寺の昶観の勸進によって奉納された経巻。これには、真木氏と同じ宮崎の梅村氏も一両出資したようである。第三の七八巻は、宝暦五年と翌六年に真木孫左衛門の次男である舍由（治兵衛、次兵衛）が

父の発願を満たすために施主となり、昶睿が勧進をおこなった経巻である。また、大般若経を守護するといわれ、大般若経会で使用される釈迦十六善神図一幅については、真木孫左衛門の長子である長大夫（勝乗、信敷）が描いて奉納した。この画幅の開眼法要を昶観がおこなったことについても記されている。このほか、宝暦五年と翌六年の書写勧進について真木氏以外の施主もいたことが他巻の識語に記されている。真木氏と同じ宮崎の浅井小左衛門正光が「一百銭」を投じ（巻二二六）、岐阜木屋町の三河屋治良兵衛（巻三二三）や、濃州恵那郡舛角村（ママ）の小木曾又八（巻三六一）も筆墨料を施入したことがわかる。

同寺の大般若経は勧進による施入のほか、一〇〇巻以上の大規模な修補が二度されたことも巻末の識語より窺える。一度目は昶観・泰然・円明によって元文元年（一七三六）に二二八巻の補修（巻四三九）で、二度目は、七八巻の施入とあわせて行われた宝暦六年の修補（巻八八・一七九・二一五・二四八・二五四・二八二・三一四・三六七・四八六・五六七）である。

宝暦六年に全巻揃った経巻は大般若経会で使用されたようで、享和元年（一八〇一）の「年中通用記」には、正月十八日に「一、本堂大般若有供物等修行終り、村方へ御札可遣事」とある。また、九月十七日条には「一、十七夜備、大般若共二三升精二而御月様、御酒一」として、十七夜の立待月に供されたともある。

識語を確認する限りでは、宝暦六年以降に大規模な施入や補修のない財賀寺の大般若経であるが、大正一五年（一九二六）に危機を迎える。昭和三年（一九二八）の本堂修繕棟札の裏書にその顛末が記されている。大正十五年の九月一日は朝より強風で、午後になると雨も加わりその激しさは増し、夜になると一層激しくなり大暴風雨となった。人々は不安な夜を過ごしたが、未明頃より風は静まった。住職は午前八時に前夜より気にかけていた本堂の様子を確認に行った。すると、本堂の棟木は飛んでおり、屋根は多くはがされていた。戸障子や格子戸は破壊され、本

堂内陣の荘厳は風雨によって荒らされていた。写経の大般若経は大方が暴風雨に侵されており、その惨状は例える言葉がなく、ただ茫然とするのみだった。しかしながら幸いなことに本尊と御前立の二十八部衆は無事だったことを確認すると、恐縮し靈威を感じ得なかった。これは不幸中の幸いであると記されている。この記事により、大正一五年九月の暴風で本堂が損壊し、建物内にも暴風雨が吹き込んだことにより、内陣の装飾や大般若経も被害に遭ったことが分かる。この時に、紛失また破棄された経巻があったであろうことは想像できる。また、調査で確認した経巻の料紙が水損に遭った状態に感じられたのは、このことも関係していると思われる。

さて、財賀寺の大般若経について、古い識語は『新編豊川市史』（第五巻、豊川市、二〇〇二年）に収録されているが、全容は把握する悉皆調査は行われていなかった。当紀要の前号では、大般若経展準備のため、平成二六年一月二四・一八両日に財賀寺で行った調査に基づいて作成した二三〇巻分のリストを紹介した。この調査では、同寺に納められている大般若経につき、巻末識語を中心に写真撮影して持ち帰り、翻刻・整理を行った。その調査時に、同寺の西本全秀住職より、別にも保管されている大般若経があると伺い、一部は調査をしてリストに掲載した。

今回紹介するリストは、別置分の全てを確認するため、美術博物館学芸員の増山真一郎とともに令和二年一月二四日に財賀寺で行った調査に基づいて作成したものである。時間的な制約もあり、今回も全巻を開披しての確認はせず、巻末の識語を中心に写真撮影して持ち帰り、翻刻・整理を行った。今回の調査では七七巻の大般若経を確認した。

今回と前回の調査によって、財賀寺に現存する大般若経は二九〇巻と確認できた。その内訳は、二〇〇番台と三〇〇番台は八割、一〇〇番までと五〇〇番台は半数、四〇〇番台は三割、一〇〇番台は一割五分程度である。またそれぞれの調査で分けてみると、今回確認した七七巻

のうち、一〇〇番までと二〇〇番台が全体の約半数をそれぞれ占めており、識語の時期については、概ね元文五年より延享三年のものであった。前回調査の二三〇巻では三〇〇番台が全体の四割、五〇〇番台が三割、二〇〇番台と四〇〇番台が一割二分程度、一〇〇番台が残りの半分だった。識語については元文五年より延享三年のものが約四割、宝暦五年六年の経巻が二割、中世のものが全体の二割であった。

調査リストに記した情報は次のとおりである。

一、巻次。今回は、客殿以外に収納されていた巻を中心に七七巻を調査した。

二、巻末識語。原本の改行は／で示し、筆跡が変わっているところは改行した。一行のなかで筆跡が変わっているところはリストに表現できなかったが、一部は「備考」にその旨を記した。破損などにより判読不明な文字は□、文字数不明な場合は「 」、推定した文字は(●●カ)、花押・梵字の場合は□(花押)・□(梵字)とした。また、巻末識語のない場合は、巻頭の内題を示した。

三、識語分類。本資料は応永年間に成立し、経巻が傷むたびに補写や修復が重ねられ、真読銘もあるため、識語は複数の時期にまたがって書かれているものも多い。その経緯などは、巻二九九にまとめられている。ここでは書かれた時期などによって分類し、次のように記号を付した。

- A 応永一二年(一四〇六)・一三年、一六(一四〇九)年、南宋・無一・高紹ら書写銘。
- B 応永一二・一三年、文明七年(一四七五)、下条右衛門太夫(下条郷竹内右衛門太夫)寄進銘。
- C 享禄五年(一五三二)、義真真読銘。
- D 元文元年(一七三六)、昶観・泰然・円明補修銘。
- E 元文五年(一七四〇)〜延享三年(一七五〇)、宮崎住真木

孫左衛門治喜父子寄進銘、同人ほか書写銘。

F 宝暦五年(一七五五)・六年、昶誉ら書写銘、治喜の子長太夫勝乗ら寄進銘。

G 宝暦五年(一七五五)・六年、昶誉補修校合銘。

H 大治二年(一一二七)銘普門寺所藏『大般若経』僚巻の裏面を利用して書写したもの。

I その他銘。

Y 挿絵有。

Z 銘なし。

四、書写年月日。料紙などにより書写の時期を推定したものは、(●●カ)と示した。

五、書写者。

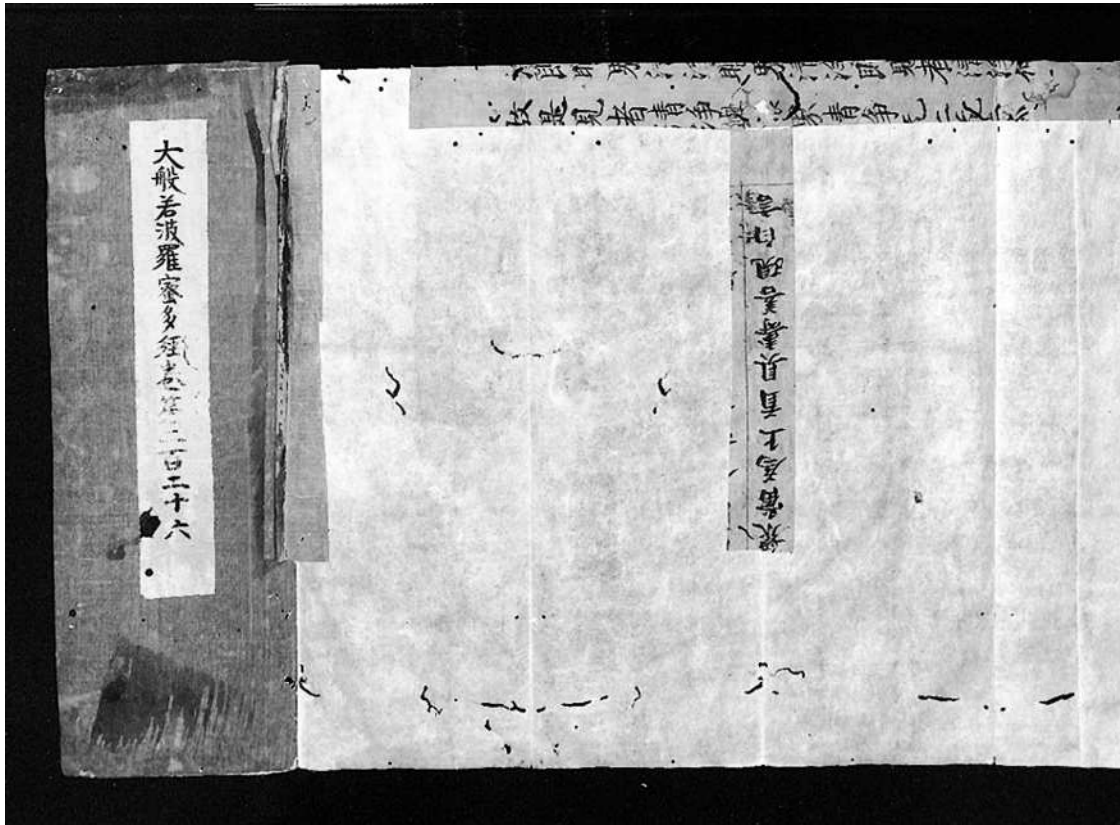
六、備考。調査時のメモ、及び整理時に気づいたことなどを備忘録的に記した。

※一七巻分は前回と重複するが、前回リストの備考欄にも別置と記載してあるため識別することは容易だと思われる。また、巻第一四八については前号で二四八と誤って記載したため巻数を修正して掲載した。

大般若経展の展覧会準備として行った前回と、それを補完するために今回の調査により、財賀寺の大般若経は全部で二九〇巻であり、全巻の半数を少し下回る数が現存していることが明らかになった。

最後に、調査の機会をくださり、目録の公開もご快諾いただいた財賀寺の西本全秀住職と、今回の調査に立ち会っていただいた真木宏哉氏には、改めてお礼申し上げる次第である。

(豊橋市文化財センター学芸員)



【写真一】 卷第三二六の補修（経巻の反故を使用）



【写真二】 卷第三三二の補修（経巻の反故を使用）

財寶寺所蔵『大般若経』令和2年11月24日別置調査分目録

巻数	巻末識語	識語分類	書写年	月	日	書写者	備考
11	大般若波羅蜜多経卷第十一 地／寛保三年癸亥十一月／黄梅山下僧某甲拜写／参州宝飯郡陀羅尼山財寶寺住／施主同国額田郡陀羅尼(ママ)／宮崎御亀穴村住 真木孫左衛門治喜／同氏長太夫勝乘／同次男治兵衛／奉納延享元甲子年二月十五日五十巻内	E	寛保3	11	—	黄梅山下僧某甲	別置、山は渭信寺(現、岡崎市上衣文町)か、延享元年2月15日奉納50巻のうち
12	大般若波羅蜜多経卷第十二／寛保三癸亥十一月百祥日／於黄梅精舍方来之雲納拜写／三陽宝飯郡陀羅尼山財寶密寺現住／勸進主 法印和観口(花押)／施主同国額田郡宮崎龜居(ママ)村住人 真木孫左衛門治喜／同氏長太夫勝乘／同次男次兵衛／延享元甲子年二月常葉会奉納／五十軸之内	E	寛保3	11	吉	黄梅精舍方来之雲納	別置、精舍は渭信寺(現、岡崎市上衣文町)か、延享元年2月15日奉納50巻のうち
13	大般若波羅蜜多経卷第十三 地／寛保三龍次癸亥十一月十七日夜／無量精舍住僧某甲拜書／施主当国額田郡宮崎亀穴村之住 真木孫左衛門治喜／同氏長太夫勝乘／同次男次兵衛／奉納大般若経 延享元甲子年二月十五日／三州宝飯郡陀羅尼山財寶寺現住／法印和観口(花押)	E	寛保3	11	17	無量精舍住僧某甲	別置、精舍は無量寺(現、蒲都市)か、延享元年2月15日奉納50巻のうち
14	大般若波羅蜜多経卷第十四／寛保二戊年今日欽而書写了筆者敬白／奉納書写相統当経全部／施主／当国額田郡／宮崎亀穴村／真木孫左衛門治喜／長子同氏長太夫勝乘／次男同氏次兵衛／奉寄付般若十六善神彩絵像一幅／施主真木勝乘自筆／奉為／石釜輪聖皇玉体安穩大樹殿下御武運長久／国儲君貴体堅固無有災殃当経本願主／竹内氏武運長久子孫繁昌今時書写有／信之僧俗在家出家沙門貴賤諸人福寿／康寧息災延命如意門滿所／陀羅尼山財寶寺現住／法印和観敬白	E1	寛保2	—	—	筆者	別置、筆紙、真木長太夫による十六善神画像の奉納銘、国儲・儲君は君主・諸侯の跡継ぎ(皇太子、災殃は災難、【写真三】)
15	大般若波羅蜜多経卷第十五／寛保二戊年今日筆者沙門某甲／書写相統免願施主／当国額田郡宮崎亀穴村住人／真木孫左衛門治喜／同氏長太夫勝乘／奉納陀羅尼山財寶寺道場	E	寛保2	—	—	沙門某甲	別置、筆紙
17	大般若波羅蜜多経卷第十七／寛保二年壬戌年／尾州名古屋川村與右衛門書／施主／参州額田郡宮崎／亀穴村 住人／真木孫左衛門治喜／長子同氏長太夫勝乘／同氏次男次兵衛／寛保第三龍集癸亥七月上旬日／同国宝飯郡陀羅尼山／財寶寺密道場／奉納大般若経	E	寛保2	—	—	名古屋 川村與右衛門	別置、筆紙、寛保3年7月2日奉納50巻のうち

巻数	巻末題語	識語分類	書写年	月	日	書写者	備考
18	大般若波羅蜜多經卷第十八／ 同三癸亥之天七月初二日／ 奉納大般若經陀羅尼山瑜伽道場常住／法印昶觀敬白(虫損、白)／ 寛保二壬戌年／尾州名古屋川村與右衛門書／ 施主宮崎龜穴村之住真木氏父子敬白	E	寛保2	—	—	名古屋 川村與右衛門	別置、 角筆、罫紙、 寛保3年7月2日奉納50巻のうち
19	大般若波羅蜜多經卷第十九／ 書写菟麗施主 当国額田郡宮崎龜穴村之住人／真木孫左衛門治善／同氏長木大夫勝乘／次男治兵衛／ 奉納／寛保二壬戌之十二月十五日／ 陀羅尼山財寶密寺現住法印昶觀敬白	E	(寛保)	—	—	財寶寺 昶觀	別置、 角筆、罫紙、 寛保2年12月15日奉納
20	大般若波羅蜜多經卷第二十／ 參州岡崎真田幸等拜書／ 寛保二壬戌年／參州宝飯郡陀羅尼山財寶寺現住昶觀口(花押)／ 施主同国額田郡宮崎鄉龜穴村住真木孫左衛門治善／ 同氏長木大夫勝乘／ 同次男治兵衛	E	寛保2	—	—	岡崎 真田幸等	別置、 角筆、罫紙
21	大般若波羅蜜多經卷第二十一／ 寛保二年戊年月日書写畢筆者敬白／ 奉納同年十二月十五日／陀羅尼山瑜伽道場安之 勸進沙門昶觀／ 書写本願施主／三州額田郡／宮崎龜穴村／真木孫左衛門治善／ 長子同氏次兵衛／ 次男同氏次兵衛／ 奉寄進／般若十六善神彩繪像／筆者勝乘	E	寛保2	—	—	筆者	別置、 角筆、罫紙、 寛保2年12月15日奉納
22	大般若波羅蜜多經卷第二十二／ 寛保元酉年月日／奉納同二年十二月十五日／ 施主／參州額田郡宮崎／龜穴村之住／真木孫左衛門治善／長子同氏長木大夫勝乘／次男同氏次兵衛／ 陀羅尼山財寶寺／伝瑜伽道場	E	寛保元	—	—	—	別置、 角筆、罫紙、 寛保2年12月15日奉納
23	大般若波羅蜜多經卷第二十三／ 于時寛保二壬戌之十二月廿日／ 書写大発願施主／參州額田郡／宮崎龜穴村／真木孫左衛門治善／同氏長木大夫勝乘／同氏次男次兵衛／ 奉納同国宝飯郡／陀羅尼山財寶寺現住／法印昶觀敬白	E	寛保2	12	吉	財寶寺 昶觀	別置、 角筆、罫紙
24	大般若波羅蜜多經卷第二十四／ 寛保元酉年今月今日書写沙門敬白／參陽宝飯郡陀羅尼山財寶寺瑜伽道場／ 奉納大般若經施主／同国宮崎龜穴村住／真木孫左衛門治善／長子同氏長木大夫勝乘／次男同氏次兵衛／ 于時同二年十二月十五日	E	寛保元	—	—	沙門	別置、 角筆、罫紙、 寛保2年12月15日奉納
25	大般若波羅蜜多經卷第二十五／ 寛保二壬戌年／尾州名古屋川村與右衛門	E	寛保2	—	—	名古屋 川村與右衛門	別置、 角筆、罫紙 補修に反故紙を使用(管門寺大治2年銘 の大般若経か)

巻数	巻末識語	識語分類	書写年	月	日	書写者	備考
26	大般若波羅蜜多經卷第二十六／ 寛保二戊午今日書写畢／ 書写相續發願施主／三州額田郡 奉納／同国陀羅尼山財寶寺廻觀	E	寛保2	—	—	財寶寺 廻觀	別置、 角筆、罫紙
27	大般若波羅蜜多經卷第二十七／ 尾州名護屋上村木町／川村与右衛門／奉納陀羅尼山財寶寺本堂内道場江／ 施主參州額田郡宮崎龜穴村住人真木孫左衛門治喜／同氏長太夫勝乘／同次男次兵衛	E	(寛保2分)	—	—	名古屋 川村與右衛門	別置、 角筆、罫紙
28	大般若波羅蜜多經卷第二十八／ 參州至飯郡陀羅尼山財寶密寺現住／法印廻觀口(花押)／ 奉納当經全部／延享元甲子天／二月十五日／ 施主同国額田郡宮崎鄉龜穴村住人／真木孫左衛門治喜／同氏長太夫勝乘／同次男治兵衛 寛保二壬戌年／筆者／尾州名古屋川村與右衛門	E	寛保2	—	—	名古屋 川村與右衛門	別置、 角筆、罫紙、 延享元年2月15日奉納50巻のうち
29	大般若波羅蜜多經卷第二十九／ 奉納書写大般若經／參陽至飯郡陀羅尼山財寶寺本堂内道場安之／ 尾州名護屋上村町／筆者／川村与右衛門／ 施主參州額田郡宮崎鄉龜穴村住人／真木孫左衛門治喜／ 同氏長太夫勝乘／ 同氏治兵衛	E	(寛保)	—	—	名古屋 川村與右衛門	別置、 角筆、罫紙
30	大般若波羅蜜多經卷第三十／ 寛保元酉年／ 書写発願施主／參州額田郡／宮崎龜穴村／于時寛保二壬戌十二月十五日／真木孫左衛門治喜／同氏 長太夫勝乘／同氏次口(虫損、兵)衛／同国陀羅尼山／財寶寺現住廻觀敬白	E	寛保元	—	—	財寶寺 廻觀	別置、 角筆、罫紙、 寛保2年12月15日奉納
31	大般若波羅蜜多經卷第三十一／ 寛保二壬戌年四月初八日書写畢 廻觀敬白／ 願主／參河国額田郡宮崎／龜穴村之住／真木孫左衛門治喜／同氏長太夫勝乘	E	寛保2	4	8	財寶寺 廻觀	別置
32	大般若波羅蜜多經卷第三十二／ 三州至飯郡陀羅尼山財寶密寺現住法印廻觀口(花押)／ 于時寛保三癸亥年五月二十二日書写了廻觀敬言／ 護持施主／參州額田郡／宮崎龜穴村／真木孫左衛門治喜／同氏長太夫勝乘	E	寛保3	5	22	財寶寺 廻觀・廻誓	別置
33	大般若波羅蜜多經卷第三十三／ 于時寛保三癸亥之天五月廿一日書写畢／沙門廻誓／敬而／書之	E	寛保3	5	21	財寶寺 廻誓	別置
34	大般若波羅蜜多經卷第三十四／ 寛保二壬戌年種月十二日書写了／遠州敷知郡中之鄉村鏡光山杉本坊現住／盛賀／為阿闍梨盛乘盛正 寛也／ 書写本願施主三州額田郡宮崎龜穴村住人／真木孫左衛門治喜／ 同氏長太夫勝乘／同氏次男治兵衛／ 奉納当国至飯郡／陀羅尼山財寶寺／瑜伽道場	E	寛保2	12	12	遠江 應賀寺 盛賀	別置、 角筆、罫紙、 杉本坊は應賀寺(現湖西市)の塔頭

巻数	巻末識語	識語分類	書写年	月	日	書写者	備考
35	大般若波羅蜜多經卷第三十五／ 寛保四甲子天二月彼岸中書写畢／ 遠州敷知郡今切中郷村鏡光山應賢寺杉本坊盛賢謹而書／之為源室性本庵主菩提也	E	寛保4		2	彼岸 遠江 應賢寺 盛賢	別置、 杉本坊は應賢寺(現湖西市)の塔頭
36	大般若波羅蜜多經卷第三十六／ 於遠州今切中郷村鏡光山應賢寺／杉本坊／盛賢／于時延享元甲子年四月中旬拜書畢／為月潭妙心大 菩提／參州額田郡／宮崎龜穴村住／真木孫左衛門治喜／ 同氏長大夫勝兼／ 同次男治兵衛	E	延享元		4	中 遠江 應賢寺 盛賢	別置、 杉本坊は應賢寺(現湖西市)の塔頭
38	大般若波羅蜜多經卷第三十八／ 皆延享元甲子年五月穀旦／ 三州宝飯郡中条郷豊川村住僧小杜多龍門謹拜書	E	延享元		5	吉 豊川村住僧 龍門	別置、 杜多、は頭陀(僧)、穀旦は吉日
39	大般若波羅蜜多經卷第三十九 兼／ 寛保第二壬戌年六月十一日三州宝飯郡萩村龍源禪寺小徒義紋謹拜書	E	寛保2		6	11 萩村龍源禪寺 義紋	別置、 龍源禪寺は龍源寺(現豊川市萩町)
52	大般若波羅蜜多經卷第五十二／ 奉納大般若波羅蜜多經／三州額田郡宮崎龜穴村住人／施主／真木孫左衛門治喜／ 同氏長大夫勝兼／ 同次男次兵衛／ 寛保二壬戌年／ 參州岡崎城内某甲拜書／ 同三年七月二日／五十卷奉納陀羅尼山御宝前	E	寛保2		—	— 岡崎城内 某甲	別置、 寛保3年7月2日奉納50巻のうち
53	真木勝兼拜書／ 大般若波羅蜜多經卷第五十三／ 陀羅尼山財賀寺現住勅進沙門昶親／ 寛保元四年／同二壬戌十二月十五日／奉納書写相統般若經意願成弁／ 護持施主／真木孫左衛門治喜／同氏長大夫勝兼／同氏次兵衛	E	寛保元		—	— 真木勝兼(長大夫)	別置、 寛保2年12月15日奉納
54	大般若波羅蜜多經卷第五十四／ 皆延享元甲子年五月穀旦／ 三州宝飯郡中条郷豊川村之住僧小杜多龍門謹拜書	E	延享元		5	吉 豊川村住僧 龍門	別置
55	大般若波羅蜜多經卷第五十五 宙	Z	—		—	—	別置、 前欠
57	大般若波羅蜜多經卷第五十七 宙／ 寛保二壬戌年／萩寺榮察某甲拜書／ 同三年七月初二日／奉納大般若經／參州宝飯郡／陀羅尼山瑜伽道場常住勅進主昶親敬白／ 施主／当国宮崎／龜穴村住人／真木孫左衛門治喜敬白／ 同長男長大夫勝兼敬白／ 同次男次兵衛	E	寛保2		—	— 萩寺榮察 某甲	別置、 寛保3年7月2日奉納50巻のうち、 萩寺は龍源寺(現豊川市萩町)か

巻数	巻末籤語	籤語分類	書写年	月	日	書写者	備考
58	大般若波羅蜜多經卷第五十八 宙／ 三州宝飯郡菟村虎岳山龍源禪寺小徒密門堅護書之終／ 寛保二壬戌年／ 同三癸亥七月初二日／ 奉納大般若經六百軸之内五十卷／陀羅尼山財寶寺住僧／勸進沙門 法印昶觀敬白／ 施主／当国額田郡宮崎／亀穴村之住人／真木孫左衛門治善／長男／同氏長大夫勝兼／次男／同氏次兵衛	E	寛保2	—	—	菟村龍源禪寺 門堅	別置、 寛保3年7月2日奉納50巻のうち、 龍源禪寺は龍源寺(現豊川市菟町)
59	大般若波羅蜜多經卷第五十九 宙	Z	—	—	—	—	別置
60	大般若波羅蜜多經卷第六十／ 奉納般若經 寛保二壬戌十二月十五日／本願主三州額田郡宮崎亀穴村之住／真木孫左衛門治善／同氏長大夫勝兼／次男次兵衛／ 同国陀羅尼山財寶寺現住昶觀敬白／ 延享元甲子年二月十五日五十巻納之	E	寛保2	12	15	—	別置、 延享元年2月15日奉納50巻のうち
79	(大般若波羅蜜多經卷第七十九)	Z	—	—	—	—	別置、後欠
116	大般若波羅蜜多經卷第一百十六／ 參州宝飯郡陀羅尼山財寶密寺現住／勸進沙門 法印昶觀口(花押)／ 寛保二壬戌年／当国岡崎堺才七黨就拜書／ 奉納大般若波羅蜜多經／施主／三州額田郡宮崎邑亀穴村住／真木孫左衛門治善／長子／同氏長大夫勝兼／次男同氏次兵衛	E	寛保2	—	—	岡崎 堺才七	別置、 前欠
119	大般若波羅蜜多經卷第一百十九／ 延享元年十一月／設樂郡作手郷長者平村正眼寺／ 宝曆六丙子歳冬十一月修補／財寶密寺瑜伽道場苾芻昶善同／国吉城中産廻士平井正慮同校／ 諸願成就円酒	EG	延享元	11	—	設樂郡長者平村 正眼寺	別置、 宝曆6年11月修補100余巻のうち、
138	大般若波羅蜜多經卷第一百三十八／ 設樂郡作手郷長者平村正眼寺／ 三州宝飯郡陀羅尼財寶密寺現住／法印昶觀口(花押)／ 同国額田郡宮崎龜穴村住人／施主／真木孫左衛門治善／ 同氏長大夫勝兼／ 同次男治兵衛／ 奉納大般若經／延享元甲子天／二月十五日	E	(寛保カ)	—	—	設樂郡長者平村 正眼寺	別置、 延享元年2月15日奉納50巻のうち
154	大般若波羅蜜多經卷第一百五十四／ 延享元年十一月	E	延享元	11	—	—	別置
156	大般若波羅蜜多經卷第一百五十六／ 沙門／昶心／謹而書写之了／ 三州額田郡宮崎亀穴村住人／施主／真木孫左衛門治善／ 同氏長大夫勝兼／ 同氏次男治兵衛／ 延享元甲子四月廿七日	E	延享元	4	27	財寶寺 昶心	別置、 前欠、前奉紙に巻79の題箋

巻数	巻末籤語	識語分類	書写年	月	日	書写者	備考
162	大般若波羅蜜多經卷第一百六十二 寒／ 寛保四甲子仲春 三州宝飯郡赤坂住 伊藤清太夫政因七十一歳敬書之	E	寛保4	2	—	宝飯郡赤坂 伊藤清太夫	別置
222	大般若波羅蜜多經卷第二百二十二／ 延享元甲子初冬廿五日書写畢 昶誓空親欽而書／行年／弱冠歳／ 三州宝飯郡陀羅尼山財寶寺現住／勅主 法印昶親口(花押)／ 施主当国額田郡宮崎亀穴村住人／真木孫左衛門治善／ 同氏長太夫勝乘／ 同氏治兵衛	E	延享元	10	25	財寶寺 昶誓	別置、 弱冠歳は20歳
223	大般若波羅蜜多經卷第二百二十三／ 三州財寶寺 勸進沙門 昶親／ 元文五庚申仲秋／同国額田郡／宮崎亀穴村／關主真木孫左衛門治善／同氏長太夫勝乘／同氏次兵衛	E	元文5	8	—	財寶寺 昶親	別置
224	大般若波羅蜜多經卷第二百二十四／ 延享元甲子年十二月十日書写畢／隆海敬白／ 助筆／昶誓敬白／ 三州宝飯郡陀羅尼山財寶寺瑜伽道場住／ 施主当国額田郡宮崎亀穴村住／真木孫左衛門治善／同氏長太夫勝乘／同氏治兵衛	E	延享元	12	19	財寶寺 隆海	別置、 財寶寺昶誓による助筆
225	大般若波羅蜜多經卷第二百二十五／ 三州宝飯郡陀羅尼山財寶密寺／法印昶親敬白／ 延享二乙丑天正月元日書写畢／ 施主当国額田郡宮崎亀穴村住／真木孫左衛門治善／同氏長太夫勝乘／同氏治兵衛 (欠リケテ)「当国宝飯郡陀口」	E	延享2	正	元	財寶寺 昶親	別置、 財寶寺昶誓による助筆
226	大般若波羅蜜多經卷第二百二十六／ 宝曆五乙亥天十二月十九日持書畢 金剛仏子昶善口(花押)／ 奉納陀羅尼山財寶寺大悲救世者御宝前／施主額田郡宮崎住／真木長左衛門信勲／同氏治兵衛舍由／ 筆墨料投一百銭施主宮崎石原住浅井小左衛門正光／ 其志何者為慈父悲母兄弟姉妹及自身／二世安樂有無而緣靈魂出離生死往生／極樂乃至法界平等利益	F1	宝曆5	12	19	財寶寺 昶善	別置、 宮崎の浅井小左衛門が筆墨料百銭を施入、 修に反故紙を使用(普門寺大治2年銘の 大般若経か)【写真一】
227	大般若波羅蜜多經卷第二百二十七	Z	—	—	—	別置	別置
228	大般若波羅蜜多經卷第二百二十八／ 宝曆五乙亥歲十月朔日書写之畢／ 三州宝飯郡陀羅尼山蘇悉地院財寶／密寺住持法印昶如上人／ 權大僧都法印昶親道賢／涼森寿泉居士大菩提／靈樹院一口(草カ)日林居士大菩提／光善院道春日清居 十大菩提／ 悲母二世安樂／願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成佛道	F	宝曆5	10	朔	財寶寺 昶如	別置、 補修に反故紙を使用(普門寺大治2年銘の 大般若経か)
232	大般若波羅蜜多經卷第二百三十二／ 宝曆六丙子歲正月九日陀羅尼山蘇悉地院／財寶寺住持昶如書写之了	F	宝曆6	正	9	財寶寺 昶如	別置、 補修に反故紙を使用(普門寺大治2年銘の 大般若経か)【写真二】

巻数	巻末畿語	畿語分類	書写年	月	日	書写者	備考
234	大般若波羅蜜多經卷第二百三十四／ 寛保三年冬七月十二日／參州宝飯郡陀羅尼山財寶寺現住／祖觀口(花押)／ 施主／額田郡宮崎龜穴村 真木孫左衛門治善／ 同氏長太夫勝乘／ 同次男治兵衛／ 同次男治兵衛	E	寛保3	7	12	財寶寺 祖觀	別置、 延享元年2月15日奉納50巻のうち
237	□(梵字)奉納書写大般若經千手千眼觀自在尊瑜伽／道場令法久住利益人天護持施主某甲／現当二世 安樂福壽康寧祈所／ 于時延享元甲子天二月中旬常樂会場之砌／治善持来而納之五十軸内也						
237	大般若波羅蜜多經卷第二百三十七	Z	—	—	—		別置
238	大般若波羅蜜多經卷第二百三十八／ 施主／額田郡宮崎龜穴村 真木孫左衛門治善／ 同氏長太夫勝乘／ 同次男治兵衛／ 同次男治兵衛 寛保二壬戌年／ 參州宝飯郡陀羅尼山財寶寺現住／法印祖觀口(花押)／ 宝曆六丙子年正月廿八日令補修畢 祖善	EG	寛保2	—	—	財寶寺 祖觀	別置、 宝曆6年修補
239	大般若波羅蜜多經卷第二百三十九／ 三州宝飯郡陀羅尼山財寶寺現住／法印祖觀口(花押)／ 寛保三年冬八月二十六日／ 施主／額田郡宮崎龜穴村 真木孫左衛門治善／ 同氏長太夫勝乘／ 同次男治兵衛	E	寛保3	8	26	財寶寺 祖觀	別置、 寛保3年7月に紅衣の僧が来て理趣分經 などを書写との畿語(巻288・296にあり)、
240	寛保三年亥七月紅衣僧来大般若書写之／処見以何意致書写我申云老是友慰致僧／云是尤之慰口 (吹分)善僧云我理趣分加筆可致云／書写／ 我是東海白老仙人岩子申者也						
240	大般若波羅蜜多經卷第二百四十／三州岡崎城内鈴木市藏書／ 寛保二壬戌年月日／ 陀羅尼山財寶密寺藏伽道場／奉納大般若波羅蜜多經 五十軸／同三年七月初二日 勅主沙門祖觀口 (花押)／ 施主／当国額田郡／宮崎龜穴村／真木孫左衛門治善／ 長子／長太夫勝乘／ 同次男次兵衛	E	寛保2	—	—	岡崎城内 鈴木市藏	別置、 寛保3年7月2日奉納50巻のうち
241	大般若波羅蜜多經卷第二百四十一／ 陀羅尼山財寶寺常住 勅進沙門祖觀敬白／ 于時寛保二壬戌正月／ 三河国宝飯郡宮路庄赤坂町／奉 岡田作左衛門川越書寫之／ 本國但馬国久見城主川越岡五郎四代孫／同国城崎郡阿瀬城主川越十郎左衛門尉重良／五世同国同郡 墨岡住川越與衛門二男／岡田作兵衛道重当国赤坂二任行年十七歳／上般生／戊午年／七拾八歳二而 卒久我師山城国宇治梅峯大禪法名無中道有居士／長子川越重繼／大藏／作左衛門／長太夫／嫡子岡 田作左衛門川越豊／長子久米太郎 重／二男勝三郎 新／三男実藏 全／ 施主／宮崎龜穴村／真木孫左衛門治善／同氏長太夫勝乘	E	寛保2	正	—	宝飯郡赤坂 岡田作左衛門	別置、 赤坂町岡田氏(本姓川越氏)の来歴(巻 241・293にあり)、
242	大般若波羅蜜多經卷第二百四十二	Z	—	—	—		別置

巻数	巻末截語	截語分類	書写年	月	日	書写者	備考
244	大般若波羅蜜多經卷第二百四十四／ 般若經書写大願主／三州宝飯郡宮崎龜穴村住／真木孫左衛門治喜／同氏長大夫勝乘／陀羅尼山財寶寺祖觀／寛保元辛酉天口月八日睡而書写畢 祖善亮深／ 奉寄進十六善神彩繪尊像一幀／筆者勝乘歛而言	E1	寛保元	□	8	財寶寺 祖善	別置、 真木長大夫による十六善神画像の奉納銘
246	大般若波羅蜜多經卷第二百四十六／ 正博謹書／ 寛保二壬戌年／同三癸亥初秋七月二日／ 奉納大般若經六百軸之内五拾卷／三州宝飯郡陀羅尼山財寶寺／權大僧都法印祖輯敬白／ 書写発願施主／当国額田郡宮崎／龜穴村之住人／真木孫左衛門治喜／長子／同氏長大夫勝乘／次男／同氏次兵衛	E	寛保2	—	—	正博	別置、 寛保3年7月2日奉納50巻のうち
247	大般若波羅蜜多經卷第二百四十七(ㄆ)／ 寛保三年亥之十一月九日／ 奉納大般若經 延享元甲子春二月十五日五十巻之内／三州宝飯郡陀羅尼山財寶寺本堂常住物(ㄆㄆ)／ 法印祖觀口(花押)／ 施主／額田郡宮崎龜穴村 真木孫左衛門治喜／ 真木長大夫／勝乘／ 同次男次兵衛／吉由	E	寛保3	11	9	—	別置、 前次、 延享元、年2月15日奉納50巻のうち
248	大般若波羅蜜多經卷第二百四十八／ 三州財寶寺／ 寛保二壬戌年／ 額田郡宮崎郷龜穴村 真木孫左衛門治喜	E	寛保2	—	—	真木孫左衛門	別置
250	大般若波羅蜜多經卷第二百五十／ 寛保四年子正月八日／奉納千手眼親自在尊御空前／ 施主／額田郡宮崎龜穴村 真木孫左衛門治喜	E	寛保4	正	8	真木孫左衛門	別置
251	大般若波羅蜜多經卷第二百五十一／ 宝曆五乙亥年九月晦日書写畢 沙門隆海	F	宝曆5	9	晦	財寶寺 隆海	別置
253	大般若波羅蜜多經卷第二百五十三／ 三河国宝飯郡陀羅尼山財寶寺門末／沙門隆海敬白／延享元甲子年十月初二日書写了／ 施主同国額田郡宮崎龜穴村住人 真木孫左衛門治喜／ 同氏長大夫勝乘／ 同氏次兵衛	E	延享元	10	2	財寶寺 隆海	別置
257	大般若波羅蜜多經卷第二百五十七／ 延享元年子十一月／石原村禪水書	E	延享元	11	—	石原村 禪水	別置、 石原村は額田郡(現岡崎市)、 禪水は瑞雲寺(現岡崎市石原町)の僧か、
258	大般若波羅蜜多經卷第二百五十八／ 寛保四年甲子二月廿一日 吾一不如法書写／ 右助筆意趣／為老師海公卅三回忌増徴(道)損生云／乃至法界平等利益 素空尼勸発	E	寛保4	2	21	岡崎 甲山寺 吾一	別置、巻524に「岡崎城之東北六院僧吾一」にあり、 素空勸発9巻のうち

卷数	巻末識語	識語分類	書写年	月	日	書写者	備考
522	大般若波羅蜜多經卷第五百二十二／一校了／ 宝曆六丙子歲秋九月十一日／三河処士平井正慮字子徳一字／玄遠為父母長久謹模写／ 施主当国宮崎御真木治兵衛舍由為／慈父寿泉所発願成就円満七十有二／輔料實附之了勤進僧昶誓	F	宝曆6	9	11	平井正慮	別置、前欠、 72巻分の資料を真木孫左衛門が施入し 昶誓が勤進の識語(巻326・480・509・ 532・535・568・582・585・588もあり)
526	大般若波羅蜜多經卷第五百二十六／ 寛保三亥歲正月廿四日／三河国額田郡雨山村清水七郎左衛門／信衛	E	寛保3	正	24	額田郡雨山村 清水七郎左衛門	別置、 前欠
574	大般若波羅蜜多經卷第五百七十四／ □(印)／ 尔時延享□(乙)丑天初冬十六日午時書写畢竟／右巻書写意趣為慈父悲母二世安業兄弟／子孫繁昌息 延命如意円満処／ □□(三州)宝城郡宮地之庄財賀寺邑／陀羅尼山財賀寺本堂道場／当山住侶金剛苾芻昶誓謹言□(印) ／ 当經書写相統発願施主／同国額田郡宮崎亀穴住／真木孫左衛門治誓／長男／同氏長太夫勝乘／次男 ／同氏治兵衛舍田／ 孫左衛門改名／涼泰寿泉居士	E	延享2	10	16	財賀寺 昶誓	別置、 前欠

財賀寺所蔵『大般若經』平成27年12月調査分目録(修正)

巻数	巻末識語	識語分類	書写年	月	日	書写者	備考
148	大般若波羅蜜多經卷第一百四十八／ 宝曆六丙子歲冬十一月百余巻昶誓正慮同校修補／ 奉真読大般若經 沙門義鎮／ □□□□□□□□□□(「内、梵字)	CG	(応永～ 文明か)	—	—	—	僧 義鎮による真読の識語、 宝曆6年11月修補100巻のうち、 墨界界紙、 前回のリストで巻248としていた